

●三位一体後第十四主日

泉のほとり

今月の詩編「第百二十編」

主よ、わたしの魂を助け出してください。

偽って語る唇から

欺いて語る舌から



神の前にいるのです

ユダヤ人のペトロが、異邦人コルネリウスの家を訪れていきます。しかし、律法において異邦人は汚れた人と定められ、ユダヤ人が異邦人と交わったり家に入ったりすることはありませんでした。使徒10章までのテキストで、ペトロが異邦人との交わりを持った記事はないことから、これまでペトロにも異邦人への抵抗があつたのではないかと思います。

しかし、神はコルネリウスに天使を遣わし、「あなたの祈りと施しは神に覚えられた。ペトロを招きなさい」と告げました。神は異邦人である彼に目を留めておられたのです。一方、ペトロにも幻を見せ、律法で汚れたとされる動物を「屠つて食べなさい。神がきよめたものをきよくないと言つてはならない」と三度告げます。戸惑うペトロのもとにコルネリウスが遣わした者たちが到着し、聖霊は「ためらわないで一緒に行きなさい」と告げられます。神が人を外見で「きよい、汚れた」とみなしておられないと悟り、彼らを迎え入れました。

ペトロたちはカイサリアへ到着します。親類や友人を大勢集めて待つていましたコルネリウス。神が遣わしてくださったペトロの足元にひれ伏し、拝み、迎えます。しかしペトロは「お立ちください。わたしもただの人間です」と彼を起き上げさせ、ためらうことなく異邦人の家に入っていきます。

ペトロは集まった大勢の人々に「神はどんな人をも汚れていると言つてはならないとお示しになりました」と語ります。日々神を恐れ、神の前に真実、誠実を為し、神に喜ばれるよう歩んでいても、あくまでも汚れた異邦人であり、真に神の民には加われなかつたコルネリウス。隔たりや妨げを感じる瞬間もあつたのでは

ないかと思いますが。しかし、その彼が今や神は自分を分け隔てなさつておられないと聞くのです。神の前にユダヤ人、異邦人の隔たりはない。これほど喜ばしい知らせはなかつたのではないかと思います。

さらにペトロが招かれた理由を尋ねると、コルネリウスは天使の言葉を伝え、「今わたしたちはみな、主があなたにお命じになったことを残らず聞くようとして、神の前にいるのです」と語つたのです。目に見える状況だけを考えると、家の中、人の前ですが、そこも神の前と見て、更にこれからペトロの口を通して語られる神の言葉を何一つ聞き漏らすまいと、神の心に心と耳を開いていたのです。

その姿を見たペトロ。人を前にしてもそこを神の前と見る信仰。神の言葉を残らず聞くようと慕い求める純真な心。神の民、イスラエルの中でさえ、これほどの信仰を見たことがあつたでしょうか。ペトロの目には、彼こそ真の神の民と映り、喜びで満たされたことでしょう。事実、神は彼の祈りとわざを覚え、ペトロを遣わし、ご自分の御心を彼に伝えるために、あらゆる導きをなされていたのです。

今も神は、コルネリウスのような純真な心で神の御前を生きる人、みことばを残らず慕い求める人に目を留め、格別な眼差しを注いでおられます。この世界の中で、その信仰に生きる人を一人でも見つけたなら、天は大きな喜びで満たされるのではないのでしょうか。

「神の前にいる」と見ていたコルネリウス。彼はペトロと出会う前から、どこにいても、誰を前にしても神の前と見る信仰によつて歩んでいました。わたしたちも、今置かれていところが神の前であることを覚え、真実に、誠実に歩んでいきましょう。神の言葉を残らず聞き、慕い求める心で歩む中で、神の目に真の神の民との眼差しが注がれるような、純真な信仰を目指していききたいと思います。

《私たちのビジョン》

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《2026年度

教会全体課題》

神さまによって

示された新しい歩みの中で、

キリストの体としての一致を

祈り求める

ーコミュニケーション、交わり、

伝道、学びなどを通してー

《今日のお知らせ》

○ 信仰者に学ぶ会を地下ホールで行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

○ 運営委員会、各小委員会がそれぞれ行われます。

○ 一二日(土)午後二時から藤田敏子姉の葬式があります。

《役員会より》

九月一三日の礼拝後、教会員懇談会を開催します。今月、吉村和雄先生に「品川教会が大切にしてきたこと」というテーマでお話ししていただきます。皆さまご都合をつけてご参加ください。

《教育奉仕委員会より》

九月二七日に皆様の愛唱讃美歌を歌うホール集会を行います。リクエスト箱を一フロビー掲示板前に設置してあります。リクエストをお待ちしています。締め切りは次週九月一三日です。どうぞよろしくお願いいたします。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【诗篇百二十篇】都に上る歌。

苦難の中から主を呼ぶと

主はわたしに答えてくださった。

「主よ、わたしの魂を助け出してください
偽って語る唇から、欺いて語る舌から。」

主はお前に何を与え

お前に何を加えられるであらうか

欺いて語る舌よ勇士の放つ鋭い矢よ

〔司・会〕

えにしだの炭火を付けた矢よ。

わたしは不幸なことだ

メシエクに宿り、

ケダルの天幕の傍らに住むとは

平和を憎む者と共に

わたしの魂が久しくそこに住むとは。

〔司・会〕

平和をこそ、わたしは語るのに

彼らはただ、戦いを語る。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「罪が待ち伏せる」

聖書 創世記4章1～8節

説教者 吉村 和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「全き心で神と共に歩もう」

聖書 創世記6章5～14節

説教者 宮間 彰広 兄

●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 76番 337番

説教 「生きるにも死ぬにもキリストが」

聖書 フイリピ1章12～30節

説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 70番 334番

説教 「本当に重要なことを見分けるように」

聖書 フィリピ1章1～11節(新約 P.361)

司式 石川 一 兄

聖餐司式 黄 允湜 牧師

説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲「おお幸いなる光よ、三位一体よ」 J.P.スウェーリク

○讃美歌70番

1.父 み子 み霊の ひかりの主よ

我らのこころの 闇を照らし
主の宿りたもう きよき幕屋
けがれなき宮と なさせたまえ

2.みまえに仕うる みつかいらは

み顔をあおぎて たたえうたう
泥^{ひじ}なる我らも ほめうたをば
真心をこめて 捧げまつらん

3.輝きかがやく みすがたには

みつかいの群も おもてを伏す
朽つべき我らは いかにすべき
みゆるしを祈る ほかはあらじ

アーメン

○聖歌隊による讃美

「主はわが牧者」 ハイドン作曲

主はわが牧者 われ乏(とも)しきことあらし
主はわが牧者 われを緑の野辺に伏させ
憩いのみぎわに伴いたもう
たとえわれ死の影の谷を行くとも 災い恐れじ
主のわれと共にいませば
われは恐れじ
清きみぎわに 伴いたもう

○讃美歌334番

1.いつわりの世に わかれを告げ

罪とけがれを うちしりぞけ
ただひたすらに われはしたう
とわに変わぬ あまつ国を

2.かみの御子なる わが主イエスよ

みむねのままに みちびきませ
苦しみわれに せまり来とも
みちからをもて つよめたまえ

3.こころのうちに 照り映ゆるは

イエスの十字架の みひかりのみ
み名をたたえて われ安けく
死のおおなみを 乗りこえゆかん

4.み腕にすがる しもべの名を

いのちの書に しるしたまえ
主は真実にぞ ましませると
あまつ国にて 我はうたわん

アーメン

聖餐曲「主イエス・キリスト、至高の善」 J.S.バハ

後奏曲「前奏曲とフーガホ長調より(フーガ)」 J.S.バハ

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。